



発行所:自由民主党京都府参議院選挙区第三支部
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウスドゥ四条ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310

発行人:二ノ湯 智

国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。
題字: 栢木寛照

えとす

令和2年 12月号
No.327

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ <http://www.ninoyusatoshi.com>

コロナ感染症の中での臨時国会 会期後半に厄介な問題が浮上



Go Toトラベルの一時停止について会見を行う菅総理
(出典: 首相官邸ホームページ)

波乱含みの来年の通常国会

第203回国会が、41日間の会期を終え、12月5日に閉会した。菅内閣の初の国会であった。国民の支持率が高く、与野党が鋭く対立するような法案もなく、穏やかな国会と思われていたが、突如、日本学術会議の任命拒否問題が浮上した。それも何とか乗り切り、一安心と思われたところ、安倍前首相の「桜を見る会」に関する問題が出てきた。さらに、会期末になって、吉川元農水大臣、西川内閣参与が鶏卵会社から請託を受けて現金を受け取っていたことが明らかになった。真相は明らかではないが、来年の通常国会では、野党からこれらの問題が追及されるであろう。コロナ感染症も拡大し、Go Toトラベルも停止され、内閣のコロナ対策も批判されている。第3次補正予算、3年度予算もコロナ対策、景気回復もしっかり盛り込んだ予算となっているが、野党は予算よりも、政府のコロナ対策、政治とカネの問題を厳しく追及してくるだろう。菅首相は来年も心安まるいとまもなさそうである。

恒心

★腐敗した独裁国家ならいざ知らず、民主主義国家で、国民が投じた票の結果を認めない候補者がいたのだろうか。私の浅い知識では、思いつかないし、おそらく洋の東西を問わず、そんな

例はなく、前代未聞の事だろう。★そんな馬鹿なことがあるものかと、一笑に付すことが出来ないことがアメリカで起こっている。トランプ大統領はもろろんのこと、トランプ大統領に1票を入れた有権者の70%以上が、いまだに真の当選者はトランプ大統領だと信じている。驚くべき数である。★なぜ、そんなに多くの人たちが、トランプ氏を当選者と思っているのか。それには、トランプ大統領の在任中の、ツイッターの書き込みの内容、あるいは記者会見での民主党、あるいはバイデン候補への誹謗中傷、更には相手陣営は大量の不正投票をしているというフェイクニュースを信じていることが背景にあるようだ。★嘘八百を並べたてる。多くの嘘をつきまくる。すぐにそれはデタラメだとわかるが、しかし、嘘も百回と言われるように、嘘も百回つきまくると、人はそれを本当と信じてしまう。トランプ大統領の記者会見、演説、ツイッターでの書き込みはそれに近いものである。★いくつかの州では、票の再集計をしたが、バイデン候補の勝利に変更がなかった。それでも、トランプ大統領は、「実際の当選者は自分であつて、バイデン候補は不正投票で当選した。選挙は無効だ」と訴訟したが、それも却下され、当てが外れた。今度は、連邦裁判事を非難し、どこまでも敗北を認めない態度である。アメリカ民主主義はどこへ行くのだろうか、心配である。

議会開設130年記念式典 天皇・皇后両陛下ご臨席

明治23年7月1日、初めての衆議院選挙が実施された。有権者は国税15円以上を納税している25才以上の男子のみ。総人口約390万人の約1%であった。納税者は、山林、田畑を持つ地主が殆んどで、郡部の有権者が圧倒的に多い。既に都会では有産階級は少なかったことの証左である。ところで、都市部はともかく、汽車や車のない時代、選挙運動はどうしていたのか興味がある。おそらく、運動員は広い選挙区を乗合馬車で走り回り、運動を繰り広げていたのだろう。選挙から5ヵ月後、明治23年11月29日に帝国議会が開かれた。もちろんアジアでは初めての議会であり、憲法を持つ国もなかった。当時、世界で、憲法と議会を持つ独立国は、わずか42カ国に過ぎなかった。徳川幕府から明治新政府になって、僅か23年の年月が経過しただけで、欧米先進国と同じように、完璧でないにせよ、民主主義政治体制を確立したことは、率直に言って、特筆に値する。黎明期における我が国指導者の志の高さと先見性に感嘆するばかりである。去る11月29日、天皇・皇后両陛下ご臨席の下、議会開設130年記念式典が、参議院本会議場で厳粛に執り行われた。

●天皇陛下おことば

議会開設130年記念式典に、皆さんと共に出席することを誠に喜ばしく思います。我が国の議会は、明治23年、大日本帝国憲法の下で開会された第1回帝国議会に始まり、中断されることなく、戦後、日本国憲法により設立された国会に引き継がれて、今日に至っています。明治、大正、昭和、平成、そして令和と、これまで130年の歳月にわたり、議会が、我が国における議会政治の確立に努め、国の発展と国民生活の安定向上に力を尽くしてきたことに深い感慨を覚えます。現在、我が国を含む世界各国は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による困難な状況に直面しております。その中にあって、国内外の諸情勢に思いを致すと、国会が、国権の最高機関として、国の繁栄と世界の平和のために果たすべき責務は、ますます重要になってきていると思えます。ここに、関係する皆さんが、先人の努力をしのぶとともに、決意を新たに、国民の信頼と期待に応えることを切に希望します。



お言葉を述べられる天皇陛下

衆議院議長式辞

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、ここに議会開設130年記念式典を挙行するに当たり、衆議院を代表して式辞を申し述べます。本日、議会開設から130年を迎え、国民の政治参加こそが近代国家建設の礎であると決意した明治の諸先人の先見と情熱に思いを致すとき、深い感慨を覚えます。開設以来、我が国の議会は、一貫して国政の針路について真剣な議論を行い、日々その真価が問われつつ、幾多の試練を乗り越え、立法府として課せられた責務を果たしてまいりました。これまでに、憲政の発展に献身された先人の御尽力に衷心より敬意と謝意を表します。

現下、我が国は、新型コロナウイルス

参議院議長式辞

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、本日にここに議会開設130年記念式典を挙行するにあたり、参議院を代表して式辞を申し述べます。明治23年11月に帝国議会が開設されて以来、わが国の議会政治は、幾多の試練を経ながらも、130年の道のりを歩んできました。昭和22年に、国民主権を基調とする日本国憲法が施行され、新たに参議院が創設されました。爾来、参議院は、国権の最高機関である国会の一翼を担い、わが国の繁栄と、国民生活の向上に力を尽くしてまいりました。

感染症の感染拡大による未曾有の状況に直面しております。また、社会の変化を反映して議会制民主主義の在り方に様々な意見も寄せられているところです。私どもは、いかなる状況にあろうとも、日本国憲法の精神を体し、民主政治実現の場は、国権の最高機関たる国会であるという強い責任感を持って、常に改善を試みながら職責を全うし、実り豊かな成果を収めていかなければなりません。ここに、私どもは、多年にわたる経験と英知によって築かれた議会制度を、次の時代により良い形で引き継いでいくという重大な使命を深く自覚するとともに、我が国の繁栄と世界の平和のために全力を尽くし、もって国民の信託に応えるべく決意を新たにしております。

今日、新型コロナウイルス感染症対策を始めとする国内外の様々な諸課題に対して、国会が果たすべき役割や責任はより一層大きなものとなっております。国民からの期待はますます高まっており、私どもは、議会制民主主義の確立のため力を尽くされた先人の功績と国民各位の深い理解に対し、深甚なる敬意を表するとともに、さらなる議会政治の発展に最善を尽くし、国会に課せられた重大な使命と国民の期待に応えるべく、ここに決意を新たにしております。

内閣総理大臣の祝辞

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、本日に議会開設130年記念式典が挙行されますことは、誠に意義深く、心よりお喜び申し上げます。明治23年、自由民権運動の高まりを背景に帝国議会が開設されて以来、我が国の議会制度は、多くの先人達により、憲政の確立と民意の反映のための尊い努力が積み重ねられ、発展を遂げてきました。戦後、日本国憲法の下、国民を直接代表する国会は、国権の最高機関、国の唯一の立法機関として、我が国の繁栄と国民生活の向上に大きく貢献され、平和で豊かな日本を築き上げる上で、中心的な役割を果たしてこられました。本日の盛儀に当たり、議会政治の発展のためにご尽力されました先輩各位に対して、深甚なる敬意と感謝の意を表します。人口減少や少子高齢化に加え、新型コロナウイルスの感染拡大等、様々な試練に直面している我々は、これらを乗り越え、新しい時代の日本をつくり上げていかなければなりません。また、各国との信頼、協力関係を更に発展させ、世界の平和と繁栄のために貢献していくことが求められております。国内外の情勢が目まぐるしく変化している今、国会が果たすべき役割はますます大きくなっています。議会開設130年の節目に当たり、国会が、全国民を代表する機関として、国民の負託に応えていかれることを切に念願して、祝辞といたします。

京丹後市網野町でふるさと対話集会

京都府参議院選挙区第三支部(支部長二ノ湯智議員)は、11月22日、京丹後市網野町のアミテイ丹後で「ふるさと対話集会」を開催した。この集会は、元京都府議会議長の小牧誠一郎氏と京都府議会議員の森口亨氏の尽力による。当日のテーマは『地方創生から地方再生』。参加者は京丹後市の市会議員とその後援会の皆様。丹後地域は丹後縮緬の機業地として、隆盛を極め、衰退したが、地域には人材、技術は今なお存在している。それらが絶えない間に、この地域を再生する必要がある。二ノ湯議員の話の後、参加者から、左記のような意見が出された。

- 1、府会議員の定数を人口比だけではなく、面積比も考慮してほしい
- 2、地方に人口を流入させる為に地方でも稼げるような仕組みを考えてほしい
- 3、議員の男女比について
- 4、着物などの和装文化を広げてほしい
- 5、消費税を一度ゼロにしてほしい
- 6、地方議員のなり手不足について



当日参加した市会議員と参加者

激戦を戦い抜いた代議士 新しい代表は名望家ぞろい

明治22年に制定された衆議院議員選挙法では、有権者は15円以上国税を払っている25才以上の男子、被選挙人は15円以上国税を払っている30才以上の男子となっていた。公示日は明記されていなかった。明治23年7月1日の投票日だけが決まっていた。しかも立候補制でなく、有権者は被選挙人名簿の中から、新時代をリードする意中の人に投票することが出来た。第1回の有権者は、全国で国民のほぼ1%。京都府は1%弱となっている。京都市内では、数十票で当選出来るのに、郡部の選挙区では7~8百票でも落選となっている。郡部で、有権者が多いのは、山や田畑という不動産を所有する地主が多く、15円の国税を払っていたからである。京都府では6つの選挙区があり、7名の代議士が誕生した。京都の代議士は何れも京都を代表する立派な人達ばかりであった。

二之湯武史氏初の著書 幻冬舎より28日に出版

二之湯武史氏初めての著書「最適化社会・日本〜幸せの国の作り方〜」が今月28日に幻冬舎から出版される。新型コロナウイルスが世界で猛威を振るい、社会のあり方が大きな変化を迫られている中、政治・経済から文化・教育にいたるまで

ポストコロナを見据えた新しいわが国のグランドビジョンをまとめた一冊です。



	(区域)行政区	定数	人口	有権者	立候補者名(得票数)
第1区	上京区	1	124,798	112	◎濱岡 光哲(27票) 坂本 則美(20票)
第2区	下京区	1	149,934	208	◎中村 榮助(47票) 山崎 恵純(43票), 能川 登(34票)
第3区	愛宕郡, 葛野郡 乙訓郡, 紀伊郡	1	123,110	1,705	◎松野 新九郎(866票) 正木 安左衛門(468票), 寺内 計之助(126票)
第4区	宇治郡, 久世郡 相楽郡, 綴喜郡	1	109,077	2,005	◎伊東 熊夫(883票) 西川 義延(550票), 田宮 勇(252票)
第5区	南桑田郡, 北桑田郡 船井郡, 天田郡, 何鹿郡	2	204,266	2,074	◎田中 源太郎(1189票), ◎石原 半右衛門(1,068票) 芦田 鹿之助(778票), 河原林 義雄(747票)
第6区	加佐郡, 與謝郡 中郡, 竹野郡, 熊野郡	1	170,054	1,413	◎神鞭 知常(669票) 小室 信夫(435票), 平野 吉右衛門(99票)
	計	7	881,239	7,517	

文明の大転換期

2020年も間もなく終わろうとしています。今年には「新型コロナウイルス」に始まり「新型コロナウイルス」に終わる1年となつてしまいました。私たちの日常においてはマスクの着用からリモートワークまで様々な変化を強いられた1年でもありました。

しかし新型コロナウイルスが我々に迫っている本当の変化は、そうした目に見える日常の変化ではなく、この社会を形成してきた価値観の変化ではないでしょうか。端的に言えば、「科学」や「経済」に絶対的な信頼を置く「西洋型」の価値観からの変化が迫られているのです。

ヨーロッパで起こったルネサンスや宗教改革以来、人類は「宗教」から解放され「科学」や「経済」を中心に物質的な繁栄を追求してきました。生産力は飛躍的に拡大、経済は爆発的に成長、そして寿命は大きく伸び、人類は大きな幸せを手に入れました。わが国も明治維新から150年にわたって西洋文明を取り入れ世界でも有数の先進国として繁栄を実現してきたのです。

しかし、特にこの20年、「グローバリ

ゼーション」という名の「世界の西洋化」が進むにつれ、経済的に儲かるものしか価値がない、科学的に証明されるものしか存在しない、とする極端な風潮がむしろ社会に弊害をもたらすようになりました。経済格差は世界的にも国内的にも急激に拡大し、行き過ぎた経済活動による気候変動も進行しています。今や人類社会は弱肉強食のジャングルと化してしまいました。

つまり新型コロナウイルスが流行するかしんかに関わらずこの社会のあり方は限界に達しており、修正が必要となつていたのです。そして全く想定外であつた新型コロナの流行は、期せずして人類の価値観の変容を迫ることになりました。

これからの社会では、物の豊かさや心の豊かさ、経済活動と自然環境、先進国と途上国、経営者と従業員など、西洋の価値観では対立するとされるものが調和することによってすべての人々が幸せを実感できる文明のあり方が求められると私は思います。そしてそれを実現し世界に発信することが、「大きく和する」とを国柄とするわが国の使命ではないでしょうか。

桜美林大学客員教授

一之湯 武史

身辺雑記

一、裏千家大宗匠の千玄室氏は97才。背筋は伸び、行動は機敏でとてもその歳に見えない。まさに人生100年時代の模範的存在。健康の秘訣を尋ねると、抹茶を毎日飲んでいるとの返答。そこで千さんにあやかろうと、抹茶を飲んでみる。

一、コロナも峠を越すだろうと期待をしていたが、残念ながら、感染拡大は収まりそうもない。政府もGOTOトラベルを停止したり、自治体も営業自粛を求めたり、拡大防止に努めているが、国民もそれに応える努力をしなければならぬ。一、香港政府による民主活動家への弾圧は、すさまじい。裁判所は違法デモを先導した罪で、23歳の若き女性活動家にも

令和3年 伊勢神宮初詣順延のお知らせ

令和3年に予定しておりました伊勢神宮初詣は、新型コロナウイルス感染症の影響で全国一律に自粛が求められている現在、誠に残念ながら順延させていただきますことと決断いたしました。

日程が確定いたしましたら再度ご案内させていただきます。大変申し訳ございませんが、ご理解の程よろしくお願ひ申し上げます。

初詣実行委員会

禁固刑を科した。中国政府の意を受けた香港政府の活動家への弾圧は、中国に対するイメージを悪化させるばかりだ。

一、年末年始の行事が、極端に少なくなった。久しぶりにゆつくり出来そうな正月である。外出を控え、読書をし、書道をしたり、静かな年末、年始を過ごしたいと考えている。天が与えた時間を有効に使わないといけない。

一、温暖化で、冬も暖かくなってきた。だが今年の年末は、厳しい寒さが続いている。ところが漬物用の大根を野外に干しているの、凍てつかないかと心配し、自動車にかぶせるシートで包んでいる。厳しい寒さも思わぬ所に影響してくる。

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいませようお願い申し上げます。

新政経懇話会
年会費 1口1万円
入会申込・お問い合わせ先
二ノ湯さとし事務所 ☎075-315-2228

来年1月号は
休刊させていただきます。

コロナ禍の中、

くれぐれもご自愛のほど、

良き新年をお迎えください。